

令和 7 年度 学校自己評価

令和 8 年 4 月 3 日

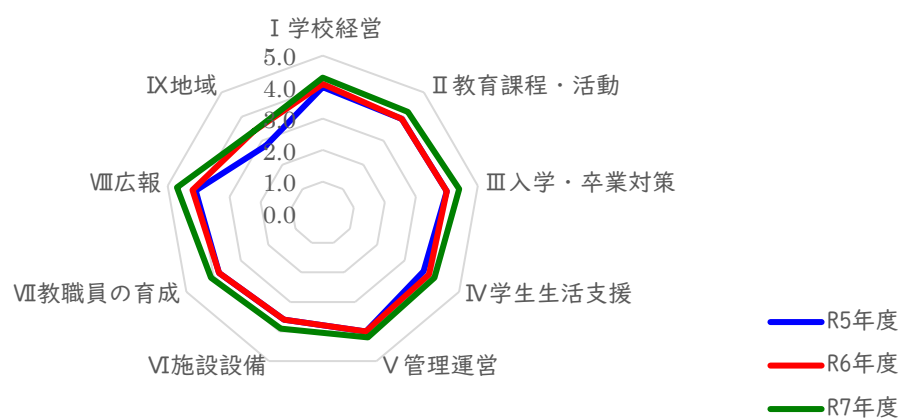
学校運営評価点

項 目	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
I 学校経営	4.3 (+0.2)	4.1 (+0.1)	4.0 (-0.1)
II 教育課程・活動	4.2 (+0.2)	4.0 (±0)	3.9 (-0.1)
III 入学・卒業対策	4.4 (+0.4)	4.0 (±0)	4.0 (±0)
IV 学生生活支援	4.1 (+0.2)	3.9 (+0.2)	3.7 (-0.3)
V 管理運営・財政	4.2 (+0.2)	4.0 (±0)	4.0 (±0)
VI 施設設備	3.9 (+0.3)	3.6 (±0)	3.6 (-0.1)
VII 教職員の育成	4.1 (+0.3)	3.8 (±0)	3.8 (-0.1)
VIII 広報	4.7 (+0.5)	4.2 (+0.1)	4.1 (+0.8)
IX 地域・国際交流	3.4 (±0)	3.4 (+0.4)	2.8 (+0.2)

総評

- ・2 項目が 3.0 以上 4.0 未満の評価であった。
- ・7 項目が 4.0 以上の評価であった。
- ・8 項目の評価が上昇していた。(0.2~0.5)
- ・評価が低下していた項目はなかった。

学校自己評価結果



令和 7 年度 学校運営の自己評価

評価項目	評価内容
I 学校経営	本校では、母体病院の理念を反映した教育理念・目的・目標を掲げ、教育活動の基盤としている。卒業生像は明文化されているが、卒業後の状況把握は十分とは言えない状況にあった。そのため今年度は、現行カリキュラムで学修した初めての卒業生（令和 6 年度卒業生）を対象にアンケート調査を実施し、教育目標および期待される卒業生像の達成状況を把握する取り組みを新たに行った。今後は、得られた情報を分析し、教育課程の改善に活かしていく予定である。 年度初めには組織目標を教職員間で共有し、10 月には中間評価を行い目標達成に向けて取り組みを進めた。運営会議、教育会議、教務会議等を定期的に開催し、特に教育会議は月 2～3 回実施することで、教育の質の維持・向上に努めている。 学校運営に関する学生の意見や要望は、年度末にアンケート形式で収集し、次年度の運営に反映させるよう取り組んでいる。また、学内および学生寮に意見箱を設置し、学生が生活しやすい環境づくりのために随時意見・要望を募っている。寄せられた意見は、教職員で検討し、可能な範囲で対応するとともに、その内容を学生に伝えるよう努めている。しかし、意見箱の対応内容については、学生への伝わり方に差がみられるとの指摘もあり、情報共有の方法やフィードバック体制のさらなる充実が求められる。
II 教育課程・教育活動	本校の教育課程は、教育理念・目的・目標に基づいて編成しており、教員は日頃から授業改善や学生支援に取り組んでいる。学生アンケートでは、授業が分かりやすい、丁寧に教えてもらえるなどの肯定的な声が寄せられている。一方で、一部の学生からは、授業資料の見やすさや授業スピード、資料配布方法の統一などに関する意見もあった。また、シラバスと授業内容の一致度や評価に関する意見も一部にみられたため、これらは授業計画・授業方法・評価の一貫性をさらに高める示唆となった。 実習に関しては「実習での学びが深まった」という肯定的な声がある一方で、指導者によって指導方法に違いがみられるとの意見もあり、実習指導体制の均質化が今後の課題として挙げられた。実習は講義と密接に関連するため、内容のつながりや指導者間の共通理解を深めることが求められる。 今後も、学生から寄せられた肯定的な声と改善に向けた意見の双方を丁寧に受け止めながら、教員が授業改善や学生支援に安心して取り組める環境づくりと、学生が主体的に学び、成長できる教育環境の整備に努めていく。
III 入学・卒業対策	今年度は、より質の高い学生を確保することを目的に、指定校推薦学校と推薦者数の見直しを行った。また、多くの方に本校の魅力を発信するため、学校説明会への参加や高等学校訪問、看護学生体験、一日看護学生体験などの広報活動に力を入れて取り組んだ。 国家試験対策については、1 年次から模擬試験やゼミを取り入れ、3 年間を通じて国家試験を意識した学習を継続して行った。各学年で学生の学習状況に応じた支援を継続して行った結果、今年度の国家試験合格率は 97%であった。今後も 100%の合格率を目指して取り組みをさらに強化していく。就職状況については、就職率は 100%であった。一方で、母体病院および連合会病院への就職率は 76%であり、引き続き、母体病院と連合会病院をはじめとし、地域医療に貢献できる人材育成と就職支援を目指す。
IV 学生生活への支援	今年度は、チューター活動において学生同士がピアサポートを発揮できる体制づくりに取り組んだ。学生アンケートでは「相手を尊重して意見を述べるのができた」「責任をもって役割を果たせた」「他学年と協力できた」など学生自身が成長を実感する意見があった。自己評価が昨年度より 0.2 ポイント上昇したことは、チューター活動に加え、日常の学校生活の中で教職員が学生一人ひとりと丁寧に関わってきた取り組みの積み重ねによるものと考えられる。また、約 80%の学生が「学校生活について相談しやすい環境である」と回答しており、日々の対話や見守りが学生の安心感につながっていることがうかがえる。今後も学生一人一人の思いや状況を丁寧に受け止めながら、より相談しやすく、互いに支え合える学校生活の実現に向けて取り組んでいく。

評価項目		評価内容
IV	学生生活への支援	健康管理については、1年に1回の健康診断を実施しており、医療機関への受診が必要な学生に対しては母体病院と連携してフォローできる体制を整えている。メンタルケアについては、教員による相談および母体病院の臨床心理士によるカウンセリングが受けられる体制を整えており、必要時に適切なサポートが行えた。 経済的支援については、本校は高等教育就学支援認定校であることに加え、病院独自の奨学金制度や日本学生支援機構の奨学金などが活用できるよう、必要な学生に対しては教務事務が対応する体制を整えている。これらの支援は、学生の経済的な不安を軽減し、必要なときに相談できる体制として機能している。一方で、学生アンケートでは、授業料等の相談ができると認識している割合に学年差がみられ、1年生では55%が「そう思わない」と回答しているのに対し、2年生では30%、3年生では38%であった。支援体制が十分に周知されていない可能性が示唆されるため、今後は入学時からの情報提供を強化し、必要な学生が早期に相談できるよう取り組んでいく。 クラブ活動については、必要時に体育館を使用できるなどの場を設けており、学生の主体的な活動を支える体制を整えている。また、ボランティア活動等については、自治会が中心となって取り組むことを期待しているものの、活動が十分に行えていない現状がある。今後は学校と自治会が協働し、地域とのつながりを深める取り組みを進めていく必要がある。
V	管理経営・財政	本校は母体病院の病院経営を基盤に運営しており、予算計画は、前年度の評価を基に策定し運営会議で検討している。教員から看護教育に必要な教材や設備について意見を求め、予算確保ができるよう努めている。 個人情報ガイドラインは明文化して提示し、必要に応じて追加修正を行っている。個人情報とは鍵のかかる場所に保管・管理している。 災害対策マニュアルとして「いのちを守る防災マニュアル」を学生に配布し、入学時には保護者へ災害時の対策について説明し協力が得られるよう努めている。また、3学年分の備蓄食を学校で一括管理し、非常時に備えている。防災訓練は、学生寮を含め定期的に実施している。一方で、学生アンケートでは、災害時や交通機関遅延時の学校対応に関する不満が一部の学生から寄せられた。判断基準を定め、決定時期も示しているものの、判断時点と翌日の実際の状況が異なる場合もあるため、情報共有のタイミングを工夫し、学生が安心して行動できるよう運用面の改善を図る。
VI	施設設備	校舎は築35年以上になるが、耐震基準は満たしており法令に基づき設備点検を定期的に行っている。エレベーターの設置がないため、バリアフリー化が十分とは言えない状況である。トイレは和式が多く設置されていたが、一部を洋式トイレへ改修することが決定している。 Wi-Fi環境については、体育館を含め校内のほとんどで利用が可能となっている。現在は、電子テキストを導入し学生がipadを使用していることから、学校で準備しているノートパソコンの台数は現状では支障はない。一方で、プリンターの不具合により学生に迷惑をかけることがあったため、今後は機器の点検や更新を含めた対策が必要である。
VII	教職員の育成	教員は、県が主催する専任教員継続研修に、それぞれのキャリアに応じて参加した。また、必要に応じて外部の研修会や学会に参加し、個々の成長につながるよう努めた。さらに、母体病院での研修会への参加やeラーニングを活用した学習にも取り組んだ。院外研修参加後には、可能な限り伝達講習の機会を設け、学んだ内容を共有できる環境づくりを行った。加えて、教員には月に1～2日の研修日を設け、自己研鑽の時間を確保できるよう取り組んでいる。 学内では授業研究を行い、授業後はディスカッションの場を設けることで、担当科目の位置づけや他科目との関連を整理し、教材や指導方法の工夫につなげることができた。また、今年度は教職員を対象に倫理的問題を扱う事例検討や急時の場面を想定した対応を考える部署内研修を実施し、実践的な判断力の向上を図った。

評価項目		評価内容
VIII	広報	受験生確保の取り組みとして、高等学校を訪問したり学校説明会に参加し本校の魅力を直接伝える機会を設けた。また、関連施設である連合会病院に学校パンフレットを設置し、地域の方々に本校を知っていただける新たな取り組みを行った。入学試験では、「指定校推薦」の高等学校の検討を行い受験につなげることができた。5～12 月にかけては、看護学生体験を実施し本校の学生とともに講義を受けてもらうなど、学校の雰囲気や学びを直接体験できる機会を提供した。さらに 8 月の 1 日看護学生では、本校の学生が参加者に看護技術を体験してもらえよう積極的に関わったほか、卒業生も参加し、看護師としての生活や仕事の様子を伝えることで、進路の選択の参考になる貴重な機会となった。 今年度も、広報活動グループが中心となり、ホームページの充実を図り、動画の作成や写真の掲載など学生と協働した情報発信に取り組んだ。また、雑誌や SNS を活用した情報発信の強化もすすめた。今後も広報活動担当の学生と教員が中心となり、本校で学ぶことの魅力をより多くの人に伝えられるよう、学校全体で取り組んでいく。
IX	地域貢献	今年度は、母体病院が開催した病院祭りに本校の学生と教職員が参加し、地域の方々に母体病院と看護学校を知っていただく機会を設けることができた。次年度は、病院祭りに合わせて学生祭を開催し、より多くの地域の方々に来校していただけるよう、自治会を中心にして企画・運営を進めていきたい。 また、地域からボランティアやアルバイトの依頼がある場合には、学生が積極的に参加できるよう調整し、地域貢献する姿勢を大切にしている。